

2016年度

学校関係者評価報告



2016年6月

学校法人 YIC学院

専門学校 YICリハビリテーション大学校

目 次

- 1、会議実施日時および出席者数
- 2、学校関係者評価委員会 委員名簿
- 3、学校機能評価委員会 委員名簿
- 4、平成 2016 年度 学校関係者評価委員会会議 議事録

1、会議実施日時および出席者数

日 時	委員出席者数	本校出席者数
平成 28 年 6 月 8 日 15:00~16:30	6 名	8 名

2、学校関係者評価委員会 委員名簿

委員名	所属等	選出区分
中寄 恵美		保護者代表
金井 和明	遊心会(YICリハビリテーション大学校同窓会) 会長 理学療法士	卒業生
宮内 順子	老人保健施設ペあれんと リハビリテーションセンター長 作業療法士	地元企業等関係者 (作業療法士職域)
綿谷 昌明	宇部第一病院 リハビリテーション科技師長 理学療法士	地元企業等関係者 (理学療法士職域)
信久 美佐子	老人保健施設寿光園 リハビリテーションセンター長 作業療法士	地元企業等関係者 (作業療法士職域)
白川 剛	宇部第一病院 在宅リハビリテーションセンター 理学療法士	地元企業等関係者 (理学療法士職域)

(敬称略)

任期：平成27年4月1日～平成29年3月31日

3、学校機能評価委員会 委員名簿

氏名	役職・所属等
中村 彰治	校長
河本 玲子	副校長
山本 悟	教務課長
三井 豪大	事務長
渡辺 慎介	作業療法学科学科長
藤井 昭宏	理学療法学科学科長
植山 ひとみ	作業療法学科教員
鹿毛 治子	理学療法学科教員

4、平成 28 年度 学校関係者評価委員会会議 議事録

平成 28 年度 学校関係者評価委員会 議事録

専門学校 YIC リハビリテーション大学校 会議室

平成 28 年 6 月 8 日 15:00～16:30

出席者

(委員) 中寄恵美、金井和明、宮内順子、信久美佐子、綿谷昌明、白川 剛
(学校：事務局) 中村校長，河本副校長，三井事務長，山本教務課長，
渡辺作業療法学科長，藤井理学療法学科長，植山教員，鹿毛教員

1. 校長挨拶 (中村校長)

2. 教職員自己紹介

資料訂正 山本悟(教務主事→教務課長)、植山ひとみ(理学療法学科教員→作業療法学科教員)

3. 関係者評価委員自己紹介

宇野委員が職場異動のため委員を辞退された。今年度は欠員補充せず 6 名で委員会を構成する。

4. 定足数確認，委員長の選出 (鹿毛)

定足数確認 委員 6 名全員が出席、規程の過半数を超えるので本会議は成立する。

委員長に綿谷委員、副委員長に信久委員を推薦。全員の賛同により承認された。

5. 議事 (綿谷委員長、信久副委員長)

(1) H27 年度の報告

- ・平成 27 年度自己点検評価について (鹿毛)

26 年度から評価 (◎○×) を上げた項目、下げた項目について説明。

- ・平成 27 年度重点項目と取り組みについて (検証) (河本)

重点項目(1) 次年度コマシラバス作成に向けての準備

①各科目の一コマごとに授業日誌を作成 (各教員、最低 1 科目についてはコマシラバス化)

②教員間での授業見学を実施 (全員が実施し、意見交換・報告書提出を行った)

綿谷委員長：学生の反応はどうだったか。

山本教務課長：授業評価を実施しているが、点数が上がった印象がある。去年、全教員の授業見学をしたが、それぞれ工夫した授業を行っていた。

綿谷委員長：コマシラバス化は引き続き推進していくということか。

河本副校長：推進する。本校では現在インストラクショナルデザイン (目標明示、導入、展開、まとめ) を学んで導入を進めている。また、アクティブラーニングの手法も取り入れるなど、コマシラバスの向上を図っていく。

宮内委員：非常勤講師の科目についてはどうか。介入しづらいと言われていたが、授業見学

はされるのか。

河本副校長：学生の授業態度を確認するために見学させていただくことはある。見学に基づいて意見交換するところまではできていない。非常勤講師の科目についてはまず学内教員で目標を明示した上で講師に依頼すべきであるが、内部教員での調整がまだできていない。

重点項目(2) 新カリキュラム導入学年（新1年生）の教育支援の構築（山本）

①小グループでの課外学習

②学外講師による補講

白川委員：以前から出席率が問題になっていたと思うが、今回はどうであったのか。

山本教務課長：一昨年度は出席管理が不十分であったという反省に基づき、対象学生のスケジュールを把握し、また担任も出席して状況を確認するようにした。その結果、出席率が向上した。

金井委員：自分たちの時は基礎科目の中に物理があったが、今はもう物理はないのか。

山本教務課長：「基礎科学」という科目があり7コマが物理である。ついていけない学生がいるので、学習支援によるリメディアル授業が必要になる。

綿谷委員長：グループ校の看護教員によるスポット講座をされているが、吸引の授業は入っているのか。

山本教務課長：スポット講座ではやっていないが、セミナーという科目でグループ校の看護教員が実施している。

重点項目(3) 低年齢層に対し OT の認知度を高める試み（河本）

①小学生向け夏休み工作教室を企画・実施（小学生10名、保護者6名の参加）

②小・中学生向け連携講座・出張講座については実施できなかった。

小学3年以上を対象としたが、一緒に付いてくる幼児向けのプログラム検討も必要。

宮内委員：小学校側の反応はどうだったか。

河本副校長：企画内容自体に抵抗は無かったが、宇部市の後援がないと協力できないという学校が多かった。早めに企画して後援を取りつけるようにしたい。

金井委員：保護者は理解できると思うが、子供たちが工作と作業療法を結びつけられるようにどの様な工夫をされているのか。

河本副校長：実際に工作しながら、「指も動くよね、気持ちも動くよね」というところからなるべく易しい言葉で伝えるようにしている。また、学校の存在を知ってもらう効果も狙っており、小学生対象の企画であるが、保護者も対象と考えている。

宮内委員：連携講座が未実施の理由は？ 依頼がなかったのか？

河本副校長：高校生向けの連携講座は企画・実施しており、低学年向けにもできないかと考えたが企画に至らなかった。マンパワー的に今年度も難しいと考えている。

綿谷委員長：当院では中学校から職場体験の依頼がある。中学校との連携も考えられるのでは？

中寄委員：私の職場では「職場体験」というかたちで来ている。

河本副校長：本校では「職場体験」ということにはならないので、作業療法士会と連携すると良いかもしれない。

重点項目(4) 国際交流活動の充実（藤井）

- ①ベトナム東部国際大学における英語研修
- ②韓国、釜山カトリック大学との国際交流事業
- ③釜山カトリック大学、春海健康科学大学との日韓リハビリテーション交流研修

2015年度は JASSO の留学支援制度の助成を受けた。

白川委員：学生への効果（反応）はどうであったか。

藤井学科長：密に交流ができ、他国の価値観や国際情勢などに触れるなど良い経験になったと考えている。英語力の向上という点では課題がある。

中寄委員：息子も参加したが、楽しかったと言っていた。

・平成 27 年度学科報告（資料参照）（渡辺、藤井）

国家試験合格率・就職率・退学率の報告。両学科とも 1～2 年休学していた学生が年度末に退学した関係で退学率が押し上げられている。国試合格率は理学療法学科 62.8%と開校以来の低い水準となり重く受け止めている。

綿谷委員：理学療法学科の合格率が低かった要因についてはどの様に分析をされているのか。

藤井学科長：ボーダー上の学生が 11 名。不適切問題がすべて採点除外になったため不利に働いた。対策については次の重点項目で説明したい。

(2) H28 年度重点項目と取り組みについて（計画）

重点項目(1)国家試験合格率 100%達成（山本）

①国家試験対策講座と模擬試験内容の見直し

②学生フォローアップ体制の強化

9 月までに担当・スケジュールを明確化して実施する。

金井委員：学内の試験に基づき国試受験を制限する学校があると聞くが、YIC ではどうされているのか。

山本教務課長：卒業試験が単位として設定されていないので、卒業要件を満たした以上は国試受験を制限していない。

金井委員：国試受験を制限すれば 100%合格にできるかもしれないが、個人的な意見としては受験を制限すべきではないと考えている。YIC のやり方でいいと思う。学生が集中して勉強していく体制が作れば良い。時間の管理については、かなり長い時間管理されているが、学生の自主性も考慮してはどうかと思う。

重点項目(2)教育の質確保のためのシラバス整備（藤井）

①コマシラバス統一フォームの作成

②新カリキュラム(1・2 年)のコマ毎の授業目標の明確

③新カリキュラム(3 年)科目ごとの授業内容の明確化

④各科目開講時期の妥当性を検討

綿谷委員長：新カリキュラムは何年生に適用されるのか。

河本副校長：今年度は 1・2 年生まで。次年度は 1～3 年生に適用され、ほぼ全科目が新カリに移行する。その段階でまた次の改訂に取りかかる。今回の改定でも 3 年位かかったので、新カリキュラムを導入しつつ、次の改訂も視野に入れておく必要がある。

中村校長：シラバスにもレベルがあり、ほとんどテキストに近いシラバスもある。シラバスを作成することで教員自身の勉強になり、学生に対する良い講義につながる。

河本副校長：シラバスに記載する目標については、「～を学ぶ」「～を習得する」などあいまいな表現を排除し、「～が言える」「～ができる」など達成できたかどうかを判定できる表現に改める作業をしている。講義では多くのことを詰め込みたくなるが、90分というコマの中で「～ができる」というところまで達成させるには、過大な目標では無理があり、割愛すべきことも見えてくる。重要な項目が抜けてないかという点検や科目間の調整も必要になる。

重点項目(3)リハビリテーション教育評価機構の認定を受ける（鹿毛）

①書面調査書類の提出②実地調査

書面調査書類は次週発送予定である。今後は実地調査にむけて準備を進める。

重点項目(4)教材・備品の管理（鹿毛）

①教材・備品台帳の整理と確認②台帳への登録・末梢の手順をマニュアル化。

現在必須教材の保有数確認中である。今のところ重大な欠損は見当たらないが、数が減っているものについては補充する。

(3) その他

綿谷委員長：ご存知のように30年の同時改訂ということで医療制度・介護制度が大きく変わりつつあり、地域包括ケアシステムも推進されている。そのような情勢に即したカリキュラムを考慮していかれるようお願いしたい。

6、その他（鹿毛）

(1) 年間予定表 スポーツ大会日程訂正（6/18→9/8）

(2) 学校パンフレット・募集要項

(3) 今後の予定について

学校関係者評価委員の任期は2年となっており、来年の3月末で任期満了する。次期については年明けにご相談させていただく。

本日の内容については議事録を作成し、綿谷委員長、信久副委員長に内容確認していただいた上で各委員へ郵送させていただく。

以上。

議事録作成者 鹿毛 治子
植山ひとみ